



杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

- 1面 キャンパスの国際化でグローバル教育の拡充を
- 4面 総合政策学部開設40周年
- 5面 地域に学び、地域に寄り添う
- 6面 リレーエッセイ(5) ドイツの教育 外国語学部 田中洋准教授
健康ひとくちメモ(32) 辛い料理とおなかの関係 医学部 大森鉄平教授
杏林スポーツ短信
三鷹市・杏林大学 ふるさと納税



キャンパスの国際化でグローバル教育の拡充を

気候変動や紛争、感染症など地球規模の課題が国際情勢や国民生活を大きく左右する時代、世界的な視野を持った学生の育成はますます重要になっています。一方で、円安や各国のインフレ、新型コロナなどの影響もあって、海外で学ぼうとする日本人留学生が減少傾向にある中、日本の多くの大学が外国からの留学生を積極的に受け入れて大学の国際性を高め、学生の教育に役立てようとしています。今号は本学がどのようにキャンパスの国際化を進めているのか、その取り組みの現状とグローバル教育の将来を展望します。

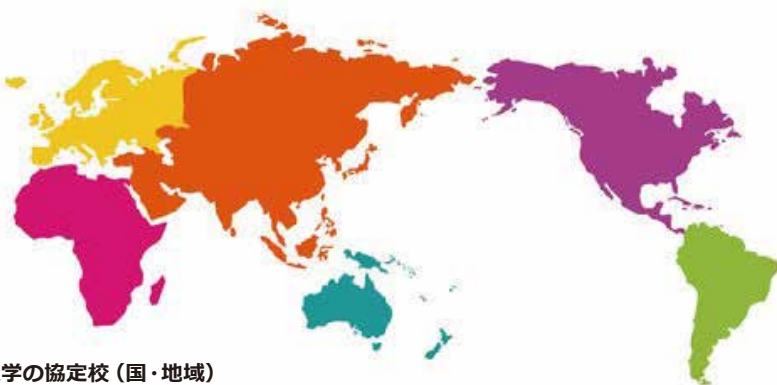


協定が促進する交換留学

国際感覚が磨かれ、人格形成にも役立つとされる海外留学。世界のさまざまな国や地域での学びは、語学力や専門知識を高めるだけでなく、異なる文化や多様な価値観に触れて広い視野を身に付けたり、直面する困難を乗り越える力を育んだりする貴重な機会となります。本学でこの留学を推し進めるいわば“エンジン”となっているのが学術交流協定です。本学は現在、15の国・地域、59の大学・機関と協定を結んでおり、2024年度はこの協定などを通じて海外の大学などに留学したり短期研修・インターンシップに参加したりした学生は95人、逆に協定等を通じて海外から受け入れた外国人留学生は、日本語・日本文化研修や医学実習などの短期研修を含めて126人を数えます。(2024年10月現在)

中国語圏に25の協定校

杏林大学の特長の一つが、中国語圏に多くの協定校を持つことです。北京外国語大学、上海外国語大学、広東外語外貿大学、香港中文大学、國立政治大学など中国と台湾で名の通った25校との間で学術交流協定を結んでいます。こうした中国語圏の協定校に1992年度から2023年度までの間、本学から送り出した学生は457人、受け入れた学生は570人となっています。中国は人口が多い上に、日本の高等教育に関心を持つ学生や保護者が多いことから、今後協定を通じて来日し、本学で学ぼうとする中国語圏の学生はさらに増えるものと見られます。



■杏林大学の協定校(国・地域)

アジア

- 中国
河北大学
天津外国語大学
ハルビン医科大学
北京第二外国語学院
杭州師範大学
浙江工業大学
北京外国語大学
大連外国語大学
北京語言大学
大連外国語大学
上海外国語大学
広東外語外貿大学
東華大学
天津理工大学
北京大學外国語学院
華東師範大学
天津理工大学
北京大學医学部
上海對外經濟大学
浙江外國語学院
西安交通大学
- 台湾
國立政治大学
南台科技大学
大仁科技大学
國立高雄餐旅大学
- 韓国
高麗大学校
乙支大学校
建陽大学校
韓瑞大学校
国立公州大学校
- タイ
マヒドン大学
チェンマイラチャバット大学
コンケン大学
メーファールアン大学
- ベトナム
ハノイ国立大学社会科学人文科学大学
貿易大学
- シンガポール
シャーテックシンガポール国際ツーリズムカレッジ
- マレーシア
ニライ大学

オセアニア

- オーストラリア
ウーロンゴン大学
ディーキン大学
アデレード大学
南オーストラリア大学
サンシャインコースト大学
ニューカッスル大学
- ニュージーランド
アラ・インスティテュート・オブ・カンタベリー

ヨーロッパ

- イギリス
イーストアングリア大学
チチェスターカレッジ
レスター大学
- フランス
クレルモン・オーベルニュ大学
- アイルランド
リムリック大学
- ベルギー
HELMOカレッジ
- イタリア
フィレンツェ大学
ウーディネ大学

北米

- アメリカ
ノーザンアリゾナ大学
ルイスアンドクラークカレッジ
ポートランド州立大学
オレゴン州立大学
ウィテンバーグ大学
エンボリア州立大学



キャンパスの国際化

外国人留学生 受け入れ強化の取り組み

日本学生支援機構によりますと、2022年度に日本の大学等が海外に送り出した日本人留学生は5万8,162人で、逆に海外から受け入れた外国人留学生は、その4倍にあたる23万1,146人に達しています。留学生の数は2019年の新型コロナの感染拡大で世界的に急減しましたが、その後、日本の場合は海外から受け入れた外国人留学生が74%まで回復したのに対して、海外に出て学ぶ日本の留学生は54%の回復に留まっています。少子化に加え、急激な円安や各国の高いインフレなど経済的な要因も働くため、こうした傾向は今後も続くと考えられ、今や日本の大学にとって外国人留学生の受け入れは大学の国際性を高めるという教育面のニーズだけでなく、経営面からのニーズも増していると言えます。

本学が進める
外国人留学生の生活支援

こうした時代の流れに対応し、本学は外国人留学生を受け入れるための環境整備を進

めています。海外協定校からの交換留学生・私費留学生に対しては、借上宿舍（留学生寮）を提供しており、一年を通して約30人の留学生が暮らしています。寮では留学生たちのサポートや日本人学生との交流を促進するため、在学生在が住み込みでアシスタントをしています。また、国際交流センターでは、奨学金に関する情報提供や相談を受け付けているほか、日本人学生や教職員との交流を深める「国際交流の集い」を開いたり、日本文化を体験してもらう研修を行ったりしています。また、在留期間の更新や卒業後の在留資格に関する手続きなど、安心して学業を継続できるよう様々な生活支援を行っています。一方、留学生には学内の語学サロンでチューターをつとめてもらうなど、外国人である強みを生かして学内で活躍できる場も用意されています。さらに外国語学部や総合政策学部では英語や中国語だけで受けられる授業が合わせて45あり、ネイティブの教員も26人います。

外国からの留学生向け
プログラム

1. ビジネスコース
2. 地域創生コース
3. 国際関係コース
4. 日英中コミュニケーションコース
5. 日中通訳翻訳コース
6. 観光マネジメントコース

本学をアピールする新施策がスタート

本学は、外国語学部中国語学科が日中の通訳・翻訳を学べる専門科目を設置して以来、高いレベルの通訳・翻訳技術が習得できる大学として定評があります。こうした背景から2025年4月には、協定校からの3年次転入生を対象に、新しく「杏林大学学部生海外留学プログラム」をスタートさせます。これは外国語学部と総合政策学部の文系2学部の学びを融合した杏林ならではのカリキュラムで、「6つの選べるコース」を提供します。入学時期は4月もしくは9月で、3年次に入学して2年間学んだのちに杏林大学の学位を取得。卒業後の進路は帰国もしくは日本での就職や進学を想定し、そのためのサポートも行います。プログラムは「語学(英語、日本語)+専門」を学ぶもので、ビジネスコース、地域創生コース、国際関係コース、日英中コミュニケーションコース、日中通訳翻訳コース、観光マネジメントコースの6つのコースで構成されています。

さらに2009年4月に国内初の「日中同時通訳マスタープログラム」が設けられ同時通

訳・翻訳者の養成に力を入れてきた大学院の国際協力研究科でも、今回、協定校向けに既存の3つの専攻(国際開発専攻、国際医療協力専攻、グローバルコミュニケーション専攻)について、留学生が内容を理解しやすいよう7つの領域を設定しました。

現地で
留学プログラム説明会

これら学部の6コースと大学院の専攻について説明するため、国際交流センター長の宮首弘子教授は、9月に中国の協定校7校を訪問しました。7校はいずれも中国国内でトップクラスの北京第二外国語学院、北京語言大学、天津外国語大学、大連外国語大学、上海外国語大学、上海對外経貿大学、広東外語外貿大学で、それぞれ学内にある日本語学院の学院長や教務担当の副院長、国際交流の担当者に説明したほか、学生や大学院生を集めて直接留学プログラムの内容を案内しました。



観光名所や文化施設での様々な体験をととして留学生に日本について知ってもらう校外研修



私たちの国際交流

通訳・翻訳を共に極めるパートナー

外国語学部中国語学科4年生の関光一さんと伍振宇さんは、宮首弘子ゼミナールで日中通訳・翻訳を学んでいます。二人はゼミでの出会いをきっかけに意気投合し、来春からはともに大学院に進学し一層学びを深めます。



外国語学部中国語学科 4年
伍 振宇 (ご しんう)

外国語学部中国語学科 4年
関 光一 (せき こういち)

宮首ゼミで知り合い意気投合

関さんはコロナ真只中の2年次に大連外国語大学にオンライン留学をしましたが、もっと言語力を鍛えたいと宮首ゼミに入りました。半数を留学生が占める宮首ゼミでは、課題や研究は全て留学生と組んで行われます。そこで出会ったのが、中日翻訳を学ぶため広

東外語外貿大学から編入した伍さんでした。

互いの第一印象について、関さんは「不思議な日本語を使う人。でも魅力を感じる人」と話します。関さんの印象について伍さんは「他の日本人学生と比べて自分の意見や気持ちをはっきり言う人」と話します。

ゼミでは留学生と日本人学生が組んでグループワークをすることが多く、互いに距離

が縮まり何でも話し合える間柄になります。波長が合う二人ならではのエピソードがあります。

互いの地元を訪問

伍さんは昨年1月に関さんの親族がいる群馬県に連れて行ってもらいました。中国南部の広東省出身の伍さんは、そこで生まれて初めて雪を見ました。また、観光に来ていた人から「娘が中国語を勉強している」と話しかけてもらうなど大学ではできない貴重な経験ができたと言います。

そして今年1月には関さんが広東省の伍さんの家に1カ月滞在しました。めったに日本人が訪れない街で、会う人会う人に、「你是日本人吗？(日本人なの?)」と声をかけられるなど現地の人々が親しく接してくれたことが嬉しかったということです。一方で、現地で使われている広東語が大学で学んできた標準語の中国語と全く異なることを知りました。現地に行かなければわからない体験をして中国語の奥深さを感じたと言います。

アウトプットも
インプットも全力

ふだん二人は、関さんは日本語、伍さんは中国語で会話します。変換できない言葉やピタッとする表現が見つからないこともたくさんありますが、ありったけの言葉を駆使してコミュニケーションを取っています。「アウトプットもインプットも全力」が二人のスタイルです。

進路も共に杏林大学院

二人はともに大学院に進学します。関さんは、外国人が日本で医療を受ける際に活躍する医療通訳士の仕事に興味を持っています。学んできた語学力を職業に活かせると思い、その養成コースがある杏林の大学院に進むことになりました。

伍さんはとにかく、日本での勉強が楽しく、何でも知りたいと言います。大学院では翻訳・通訳の専門知識を身に付け、日本という国や文化への理解を深めたいと話しています。

キャンパスの国際化

各国学生が切磋琢磨するキャンパスの未来

中国の協定校を訪問した宮首弘子国際交流センター長に「杏林大学学部生海外留学プログラム」に対する協定校の反応や外国人留学生を迎え入れることでキャンパスの国際化をどのように進めるのか、さらに学生のグローバル教育の将来について伺いました。



宮首 弘子 (みやくび ひろこ)

国際交流センター長／外国語学部教授
中国四川大学外国語学部日本語文学学科卒業。同大外国語学部で教鞭をとり、来日後は通訳者・翻訳者として実務経験を積む。神田外語大学、大妻女子大学を経て、2007年杏林大学着任

本学プログラムに
中国人学生の高い関心

訪問したいずれの大学でも本学のプログラムに高い関心が寄せられました。その背景には、近年中国では外国語大学が外国語を教えるだけでは優秀な学生を集めにくくなっていて、「語学+専門知識」を持つ複合人材を育てることに注力していることがあります。その点、本学のプログラムでは、高齢化社会や人口減少、医療や福祉政策、地方創生などの専門知識を学べることが中国国内でのニーズに適応していることを知りました。そして、中国の大学と杏林大学の2つの学位を取

得できることにも大きなメリットを感じているようでした。

学生に直接行ったプログラム説明会も盛況でした。説明会にはそれぞれ1～2年生が中心に集まり、参加者は7校合わせて約400人にのぼりました。どの会場でも学生たちは高い関心をもって聞いてくれました。余談ですが、ある大学では、杏林に留学していたという学生が登壇し、その時の思い出を披露してくれたサプライズもありました。

外国人留学生から
得られる貴重な学び

まず、経済的理由や健康面など様々な事情で海外留学ができない学生にとって、キャンパスに居ながらネイティブの人と外国語でコミュニケーションが図れ、外国人留学生を通して彼らの国について知ることができるのは大きなメリットです。実際に、外国語学部や総合政策学部で行われた日本人学生と外国人留学生の合同授業ではディスカッションやワークも行われ、学生たちは英語を使う楽しさを感じるとともに、コミュニケーション・スキルを高めるためにさらに英語力を伸ばしたいという意欲も芽生えたようです。また、学生たちには外国人留学生の発言やプレゼンの仕方などに刺激を受け、それを自



英語学科1年生と留学生の合同授業。グループにわかれて互いの国に関する質問や文化の紹介などを英語と日本語で行いました

分の中に積極的に取り入れようとする姿勢も伺えました。

さらに、外国人留学生は「こういうとき日本人はどうする?」「日本語でなんと言う?」と学生たちにたくさんの疑問を投げかけてきます。こうした疑問に答えるために、学生たちは改めて日本という国や日本人について考えるようになります。海外留学から帰国した学生から「日本の歴史や文化をもっと知るべきだと思った」という話をよく聞きますが、外国人留学生を迎え入れることで、杏林のキャンパスでも似たような体験ができるのは有意義なことです。

外国のことにに関して事実を知ることができるのも大きな利点です。今やネットなどを通じて外国の情報を簡単に手に入れることができるので、日本の学生は相手国のことを知っていると錯覚していることがあります。学生たちは外国人留学生との直接的な交流を通じて、自分が持っているイメージとは

異なる事実を知ることができます。留学生と共に学び、意見を言い合うことで、その国の等身大の姿に触れることができるのです。相手との共通点もあれば異なる考えもあるでしょう。様々な視点で物事を考え、理解し、自分自身の視野を広げてほしいと思います。

各国の学生が集う
キャンパスの未来

杏林大学は学生と外国人留学生が互いに向き合って交流を深めるにはちょうどよい規模の学生数と落ち着いた周辺環境を備えていると思います。今は中国の大学からの留学生が多いのですが、中国以外のアジア圏ははじめ世界各国の留学生が集うキャンパスにしたいという夢があります。それから、もっと多くの日本人学部生が大学院に進学し、意欲ある大学院の外国人留学生と切磋琢磨して研究、学問を突き詰める姿が見たいと思います。

私たちの国際交流

留学生寮アシスタント 外国人の素顔にふれる国際交流

外国語学部英語学科4年生の中谷萌さんは、キャンパス近くの留学生寮で住み込みのアシスタントをしています。寮には現在、中国、アメリカ、イタリアなどから約30人の留学生が暮らしていて、中谷さんのほか2人の学生がアシスタントをしています。

「留学に行かずとも日々の生活に留学生がいるのは恵まれた環境だった」という中谷さん。寮で留学生のサポートに奮闘しています。

外国語学部英語学科 4年
中谷 萌 (なかや めぐみ)

ごみ分別の壁

中谷さんは寮のアシスタントとして入寮・退寮時の手続きから生活のサポート、相談の対応、また希望があれば買い物にも付き添います。

ほとんどの留学生が最初に苦労するのがごみの分別。日本式の分別方法に慣れない留学生には中谷さんたちが指導しながら一緒に分別作業をします。中谷さんはリサイク

ルや焼却場の問題などを丁寧に説明しながら分別の仕方を教えます。日常生活の様々な場面で「日本」を理解してもらっていると話します。

会話は身ぶり手ぶりと
やさしい日本語

留学生に話しかけると、中谷さんは、やさしい日本語をジェスチャーを交えてゆっくり話すようにしています。これは中谷さんが教育実習で学んだコミュニケーション技術です。生徒にどんな言葉でどんな身ぶり手ぶりで伝えれば理解してもらえるかを経験したことが背景にあります。

「食」のコミュニケーション

寮の集会室では1学期に1～2回、中谷さんたちアシスタントが企画するパーティが開



寮の集会室で



新年会でふるまったお雑煮

かれ、和食やそれぞれの国の料理を持ち寄って、食事をします。新年会ではお雑煮を作って一緒に食べました。具材の意味や日本では地域ごとに違った雑煮があることなど伝え、食文化についても紹介しました。中谷さんのアイデアや留学生への気持ちが込められた「食のコミュニケーション」です。

留学と違う
国際交流のカタチ

中谷さんは寮のアシスタントを通して様々なことを経験しました。留学生との間で戸惑う場面もありましたが、それは言葉の使い方

や文化の違いによるものが多いと感じています。そうした経験から中谷さんは相手の考えを尊重し、互いに心地よい距離感を保ちながら、留学生が日本でいい時間を過ごせることを優先して接するようにしていました。留学を終えて退寮する留学生からは「また会いに来る」「今度は私の国に来て」と言われることもたびたびで、中には、母国に戻ってからSNSで連絡を取り合うなど交流を続けている留学生もいるということです。寮でのアシスタントはあと半年で終わる中谷さんですが、「留学に行くのとは違う経験ができたと思っています」と話しています。

総合政策学部開設40周年 ～学部の歩み、今、そしてこれからを見つめて～

今年、総合政策学部は開設40周年を迎えました。医療系の大学だった杏林に、初めて文系の社会科学部（現在の総合政策学部）が開設されたのが1984年4月です。これは、創設者である松田進勇初代理事長の「大学が大学として存在するためには、広い視野でヒューマンズや社会科学の問題についても考え、学ぶ必要がある」という理念に基づいています。この理念が、杏林大学が総合大学へと発展する礎となりました。

2002年4月には、社会科学部から総合政策学部へと名称が変更されました。昨年度までに11,203名の卒業生を輩出し、それぞれが社会で活躍しています。総合政策学部のこれまでの歩みと今、そしてこれからについて、内藤高雄学部長のインタビューとともにお伝えします。

第8代 学部長

Interview



内藤 高雄 (ないとう たかお)

1988年成城大学大学院経済学研究科経営学専攻修士課程修了。1990年杏林大学着任。1991年成城大学大学院経済学研究科経営学専攻博士課程後期単位取得退学、2009年経済学博士(成城大学)。2024年4月総合政策学部長。東京新大野球連盟会長(2019年より)

未来を語り合った教員たち

— 杏林大学に着任したのはいつですか

1990年4月ですので、今年で35年目になります。総合政策学部の前身である社会科学部の7期生が入学した年でした。

— 当時の様子を教えてください

教員も皆若く、授業や研究以外にも様々なことをやりました。例えば、現在では入試のマニュアル作りや学園祭の設営などは事務職員が行っていますが、当時は人手が少なく、教員も総出でこれらの作業を行っていました。今では考えられないことかもしれませんね。

そういった業務もこなしつつ、教員たちで食事に行くと、これからの学部について真剣に議論したりしました。大学をより良くするためにはどうしたらいいか、ということを目に語り合っていました。

社会科学部から総合政策学部へ

— 総合政策学部名称変更したのはなぜでしょうか

実は、「社会科学部」は、具体的に何を学ぶかが理解されにくい面がありました。中には

「社会科」で区切って読まれてしまい高校までの授業にある「社会科」を勉強する学部なのかと考える受験生もいました。そこで2002年に学部名を「総合政策学部」に変更しました。学部名は変わりましたが、創設時からの学びの特徴やめまぐるしく変化し、複雑化する社会に対応する力をもつ人材を育成する理念はしっかりと受け継がれています。

— 総合政策学部の特徴は — どういったところにありますか

いろいろな角度から社会事象を学ぶことができるという点です。現代社会は非常に複雑化し、明確な正解のない問いに囲まれています。このような多様な社会の課題解決のためには、複数の視点が必要になってきます。総合政策学部では、はじめに政治、経済、法律、国際関係、福祉政策、経営、会計と幅広い領域を学んだうえで、社会の課題を捉え、課題発見能力を養成し、多角的に物事を考え、その課題を解決する能力を身につけていきます。

また、グローバル化に対応できる人材を育成するGlobal Career Program(GCP)、デジタル化に対応する人材育成をめざすData Design Program(DDP)、地域社会で実践的に学ぶCommunity Based Learning(CBL)の3つのプログラムを用意して、学

生が自分の世界を切り拓く力を支援しています。

学生と共に半世紀の歴史を

— 学生や卒業生に伝えたいことはありますか

総合政策学部には多様な学びの機会があります。積極的にチャレンジして、それぞれに成長を感じてもらい、社会に巣立ってほしいと思います。1万1千人を超える卒業生たちは国内外の社会の様々な分野で活躍しています。今年の杏林祭の期間中に行われた同窓生の集いには多くの卒業生たちが元気な姿を見せに集まってくれました。私たち教員にとってもっとも嬉しいことの一つです。これからも母校に足を運んでほしいですね。

— 次の10年に向けて — メッセージをお願いします

1984年に社会科学部として開設以来、多くの方々のご努力で、本年、40周年を迎えることができました。少子化で学部を取り巻く環境が厳しい中、今後も多くの卒業生や先輩教職員の方々のあつい想いのこもったこの学部を守り、発展させていくことが、節目の年に学部のかじ取りをする私たちの責務であるとの自覚をもって、日々、努力していくことをお誓い申し上げます。

■学部沿革

1984.4	2002.4	2006.4	2016.4
社会科学部（社会科学科）開設	社会科学部 社会科学科を 総合政策学部 総合政策学科に名称変更	総合政策学部 企業経営学科開設 2学科に	井の頭キャンパスへ移転

■歴代学部長

							
1984-1992 白石 孝 (経済学)	1992-2002 田久保 忠衛 (国際政治学)	2002-2006 千葉 洋 (税法、会計学)	2006-2008 笈川 博一 (中東近代史)	2008-2014 松田 和晃 (法制史)	2014-2020 大川 昌利 (日本経済論、金融論)	2020-2024 北島 勉 (国際保健学、医療経済学)	2024- 内藤 高雄 (会計学)

■受け継がれる学び、新たな学び

				
1986年に始まったゼミナール。教員や先輩、同期の仲間や後輩など人間関係が育まれる場にもなっている	2008年に科目名になった「学際演習」。多角的にものごとを考える力を養う学びは開設当初から行われている	2016年4月に開始したGCPでは「英語で考え、表現し、伝える力」を養う。留学などを通して社会科学を英語で学ぶなどして国際的なビジネスパーソンを目指す	2022年4月に開始したCBL。日本国内各地での地域活動を通じて、それぞれの地域の課題を発見し解決策を見出す	

地域に学び、地域に寄り添う

～多様・多彩な学生たちの取り組みがさらに前進～

イベント会場で地域連携活動を実践

外国語学部と保健学部の連携で新しい観光の形を研究・提唱しているウェルネスツーリズム・プログラムでは、今年度も様々なプロジェクトを実行しています。その中心になって活動しているのが外国語学部観光交流文化学科の小堀ゼミナールです。

小堀ゼミでは、9月28・29日の2日間、学生10名が東京ビッグサイトで開催された旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2024」の長野県ブースのスタッフとして参加。ブースを訪れた来場者に地域の見どころを紹介した資料を手渡ししながら、日頃学んでいる信州の観光や温泉の魅力を案内しました。

また、小堀ゼミでは10月5日に東京の渋谷ストリームで開催された「都会でオフろう。渋谷温泉 supported by 東伊豆町」というイベントの準備や運営に携わり、杏林大学ブースにおいて日頃の温泉研究の成果を来場者に公開しました。また、「温泉〇×クイズ大会」では、温泉専門家として活躍している本学国際協力研究科の大学院生・北出恭子さんとゼミ生が一緒になって会場を盛り上げ、研究活動地域である東伊豆町の魅力発信に努めました。



信州ブースで活動する学生。イベントには海外80カ国・地域、国内47都道府県の団体等が出展。会期中は18万人を超える来場者でにぎわった

過疎地域の医療現場で社会課題を実体験

8月19日から4日間、医学部と保健学部看護学科看護養護教育学専攻の学生7人が福島県いわき市鹿島町で地域医療を体験しました。同市かしま病院が行う訪問診療への同行、特別養護老人ホームでの交流のほか津波の被害があった地域なども見学しました。学生たちは学部をこえて様々な活動を協働するなかで、患者さんの生活全体を見つめ、暮らしぶりやその背景、価値観などを理解することの重要性を学びました。

また、医学部の統合医療研究部の学生10人は、8月9日から2日間、福島県南会津町の館岩愛輝診療所で外来や在宅診療を見学しました。へき地医療見学会は2012年から始まり、コロナ禍での中断をはさんで今年度10回目を迎えました。今回も学生たちは地方の医療過疎の実態を目の当たりにし、内科、小児科、外科のほか、脳卒中や心筋梗塞などの初療を担うなど、様々な症状の患者の受け皿となる地方の診療所の重要性を学びました。



特別養護老人ホームで利用者の話を聞く学生（いわき市鹿島町） 館岩愛輝診療所で診察体験をする学生

市民の防災意識の向上に寄与

保健学部では1年生の「救命救助法」の実習として、一次救命処置に必要な心肺蘇生やAEDなどの技術を習得する講習及び応急手当の指導方法等を学ぶ応急手当普及員講習を三鷹消防署員等の指導のもと行っています。この講習を過去5年間で約2,500人が受講し、約260人が応急手当普及員に認定されています。こうした活動が評価されて、保健学部は9月13日、東京消防庁三鷹消防署長から感謝状が授与されました。技術を身につけた学生たちは、今年も9月に八王子駅前でJR東日本八王子支社、東京消防庁八王子消防署とともに、蘇生訓練人形を使った胸骨圧迫のやり方やAEDの使い方を教えるワークショップを開きました。他にも地域の小中学校の生徒や連携市の地域住民などを対象に救命講習を行うなど普及活動に取り組んでいます。



JR八王子駅でのワークショップ



キャンパスの杏を活かして地域に貢献

「杏林」の名は、中国の三国時代の名医、董奉^{どうほう}に由来します。彼は治療代の代わりに杏の苗を植えることを患者に求め、その実を穀物と交換して貧しい人々を助けました。この故事に倣い、キャンパス内で収穫した杏の実を有効活用し社会貢献を目指す「杏の実プロジェクト」が渡邊学長の呼びかけで発足し、昨年から杏ジャム作りが始まりました。今年も学生と教員が協力してジャムを作り、10月2日に杏の実の収穫祭を開催。学部をこえて参加した学生、教職員合わせて70人はジャムを味わいながら改めて杏林の由来に思いを馳せました。

さらに今年は収穫された杏の実の一部を三鷹市内の工房で販売用ジャムに加工しました。約170個のジャムは10月末の杏林祭で販売されました。売上げは、三鷹市内で子どもの居場所づくりプロジェクトを運営するNPO団体「だんだん・ばぁ」の活動に全額寄付されます。



ストレッチ教室で高齢者を“健幸”に

自身の健康をチェックして、日常生活に運動の習慣を取り入れることで元気に過ごしてもらおうと年4回開催している「三鷹健幸ストレッチ教室」が10月5日、井の頭キャンパスで開催され、三鷹市在住の60歳以上の方16人が参加しました。保健学部リハビリテーション学科の榎本雪絵准教授の指導のもと6人の学生は、参加者たちに運動前の血圧や脈拍測定、体力測定、運動を行う上でのアドバイスをを行いました。今年度の最終回は12月を予定しています。



三鷹国際交流フェスで運営をサポート

世界各国の音楽や料理などを楽しみながら国際交流を深めるイベント「三鷹国際交流フェスティバル」が9月22日に井の頭恩賜公園で開催され、外国語学部英語学科の坂本ゼミナールとボランティアサークルfeelから合わせて23人の学生が参加して英語での司会や場内アナウンス、清掃活動を行うなどイベントの運営・サポートに携わりました。

会場には市内や近隣市に住む外国人や家族連れなど約3万人が訪れ、世界各国の料理や雑貨、特設ステージで披露された各国の音楽やダンスなどの催しを楽しみました。主催者の三鷹国際交流協会からは、本学学生たちの活動でイベントが盛り上がったと感謝の言葉が寄せられました。

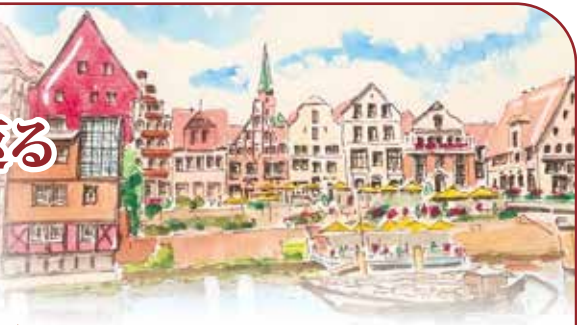




リレーエッセイでは、杏林大学の先生たちに日頃の授業では取り上げない話題や知識、見聞などを自由気ままに書き綴っていただきます。

自由—選択—責任 ドイツの教育を振り返る

親の仕事の関係で、12歳の時に慣れ親しんだ茨城を離れ、ドイツに引っ越した。初めて暮らす異国の地は驚きに満ちていた。日が長い夏は夜10時を過ぎても明るかったり、八百屋さんに行くと、店主が生ニンジンをおやつにくれたり。しかし、何よりその違いを痛感したのは学校生活である。ドイツでは日本の教育制度と大きく異なり、大体小学5年生の終わりに大きな分岐点に立つ。つまり、この年で早くも大学に進むか職業訓練を希望するかなどで進路が様々に分かれるのだ。当時私が通っていたのは、将来をもう少し検討したい子供のためのGesamtschule(ゲザムトシューレ、総合学校)であった。授業のやり方も日本とは大きく違っていた。国語の時間は討論がメイン、算数は日本より3年ほど進み方が遅い。歴史の授業では、ナチスがユダヤ人虐殺に使ったガス室の映像を見せられた。生物の授業では避妊具を手にとって使い方を学んだ。授業は午前中で終わり。クラブ活動も塾もない。放課後は皆が思い思いに好きなことをしていた。学費は小学校から大学まで無料(公立に限る)。政府がこれを改めようとした時期があったが、学生たちがデモを繰り返して激しく抗議。講義棟入口のドアがチェーンでぐるぐ



る巻きにされていたこともあった。国公立大学は寮費が月3万円程度、そして2万円程の Semester登録料を支払えば、公共交通機関がタダになり、映画や演劇も破格の割引で観られた。よほど居心地がいいのか、学生寮では30代で学部生を続けているという人たちも珍しくなかった。ただ、どこかの時点でこの自由な大学生活に別れを告げ、厳しい現実と向き合うことになる。子供の頃から多くの自由を与えられる一方で、誰もが後戻りのできない厳しい選択を迫られ、それに伴う責任は自分が負う。自分の適性に見合わない進学をすれば中学校においてさえ留年は十分起こりうるし、例えば大学を卒業したとして、大卒向けの仕事しか選択肢がないという制約のもと限られた働き口の熾烈な奪い合いが待っており、高い失業率という現実問題は避けられない。日々の制約は多いが路線変更には寛容で、物事が概ね横並びで確実に進んでいく日本とは対照的だ。が、この自己責任の厳しさを教えることが本来教育に必要なものなのではないかと、私はつい思ってしまうのだ。



外国語学部英語学科・准教授

田中 洋 (たなか ひろし)

東京外国語大学外国語学部欧米第一課程(ドイツ語専攻)卒業。東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士後期課程を経て、2020年杏林大学外国語学部着任。専門は近現代ドイツ文学。著書、翻訳に『ドイツ文化事典』(丸善出版)、『ヘルマン・ヘッセ エッセイ全集』(臨川書店)など

健康ひとくちメモ ③2

辛い料理とおなかの関係



なぜ激辛が流行?

近年、激辛料理の人気の高まり、コンビニでも手軽に激辛商品が手に入るようになりました。SNSでの「激辛チャレンジ」動画も流行し、若者を中心に、より刺激的な味を求める傾向が強まっています。これには激辛を食べることでストレス解消効果や味覚の刺激による食欲増進効果、さらにはSNSで発信することで、達成感や承認欲求を満たせることなどが関係しているかもしれません。

激辛のメリットとデメリット

激辛料理の辛み成分であるカプサイシンは、汗をかかせたり、代謝を上げたりする効果があります。一方で、激辛料理は健康への影響も懸念されています。過剰に摂取すると、胃腸の粘膜を刺激し、胃炎や潰瘍を引き起こす可能性があります。カプサイシンは消化を促進する働きがありますが、過剰摂取は逆に消化不良を引き起こすことがあります。また血管を拡張させる作用があり、頭痛や吐き気を誘発することがあります。つまり胃腸が弱っている時や、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの経験がある人は注意が必要です。

炎症性腸疾患と激辛料理

若い方を中心に炎症性腸疾患(IBD)の患者さんが増えています。IBDには、主に潰瘍性大腸炎とクローン病があり、腸に慢性的な炎症が起こる病気のため、激辛料理には注意が必要です。IBD患者さんであっても、お薬でしっかり炎症をコントロールできていれば楽しむ程度の香辛料を用いた料理は必ずしも避ける必要はありませんが、炎症が続いている状態では腹痛を感じ、下痢を悪化させる可能性もあります。

辛いものの付き合い方

胃腸が弱い方や胃腸の病気をした方が辛いものを食べなくなったら、まず少量から始めましょう。そして何か異常を感じたらすぐに食べるのをやめ、医師に相談することが大切です。

辛い料理は食欲を刺激し、食事を楽しくしてくれる食べ物です。しかし、過剰摂取は健康を害する可能性があることを忘れてはいけません。自分の体調と相談しながら、適量を楽しみましょう。



医学部附属杉並病院消化器内科・教授

大森 鉄平 (おおもり てっぺい)

埼玉医科大学卒業。東京女子医科大学、さいたま市立病院を経て2024年杏林大学医学部着任。専門は消化器内科全般・炎症性腸疾患の診断と治療、小腸疾患の診断と治療

杏林スポーツ短信

●杏林大学強化指定クラブ

〈硬式野球部〉秋季リーグ戦3位 10年ぶり2度目の関東地区大学野球選手権大会へ



令和6年度 東京新大学野球連盟秋季1部リーグは10月20日に終了。杏林大学は6勝6敗 勝ち点3でリーグ3位となりました。また、ベストナイン・二塁手に若井太陽さん(総合政策学部4年)が選ばれました。

秋季リーグの結果、本学は横浜市長杯争奪第20回関東地区大学野球選手権大会への出場権を獲得しました。本学が同大会に出場するのは10年ぶり2度目。初戦の相手は国際武道大学です。試合結果は大学ホームページなどでお伝えします。

●杏林大学強化指定クラブ

〈バスケットボール部〉秋季リーグ戦 強豪相手に健闘し3部残留を決める



第100回関東大学バスケットボールリーグ戦の杏林大学の最終週の試合が11月2日、3日に行われました。2日は国際武道大学と対戦し99対92、翌3日は帝京平成大学と対戦し103対70と2連勝してリーグ戦を締めくくりました。この結果杏林大学は、22戦11勝11敗、勝率5割で3部リーグ残留となりました。

なお、個人賞として得点王に伊藤太陽さん(保健学部3年)、スティール王に小林亮太さん(同3年)、ブロック王にウノジ路偉さん(同3年)がそれぞれ選ばれました。

「ふるさと納税」による大学支援ができるようになりました!

2024年度から、三鷹市を通じた「ふるさと納税」による大学への寄付が可能になりました。皆さまからお寄せいただいた寄付金は、杏林学園の教育・研究活動の充実、地域貢献活動などの取組みを推進していくために活用させていただきます。皆さまからの温かいご支援をお待ちしております。

お問い合わせ先: 杏林学園募金事務局 TEL.0120-50-1665

寄付方法等詳細はこちら



編集を終えて

- 最近では「グローバル化」が社会のあるべき姿とされることが多いのですが、個人的には、国境の垣根を下げて人的流動性を高めるとともに各種制度や慣習などを全世界的に一律標準化するには時期尚早と感じています。まずは、異なる国籍の人々が自国と他国との文化や社会的慣習の違いを理解しつつ互いに高め合う「国際交流」の段階が必要だと思うのですが、今回の記事を通じて、交流による学びが本学にもたらす価値を再認識しました。(編集長)
- 読者としては創刊号より目を通してきた大学新聞ですが、今回は初めて編集に携わりました。今回取り上げたいくつかの記事は取材の場にも同席し、それをどのように文字に起こせば皆さんに興味深く読んでいただけるか苦慮しながら紙面にしました。日々現場で起こっているニュースになりそうなお知らせのすべてを広報室の限られたリソースで収集することは困難です。もし紙面に載せられるようなネタがあれば教えてください。皆様と一緒に「杏林の今」を伝える魅力ある新聞にしたいと考えています(広報室長)

杏林大学新聞 編集長 古本泰之(学生支援センター長) / 広報室
TEL.0422-44-0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp URL <https://www.kyorin-u.ac.jp/>